

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-9006

(43) 公開日 平成8年(1996)1月12日

(51) Int.Cl.⁶

H 0 4 M 1/05

識別記号

Z

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号

特願平6-135540

(22) 出願日

平成6年(1994)6月17日

(71) 出願人

000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72) 発明者

山下 厚

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(72) 発明者

原口 光弘

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(74) 代理人

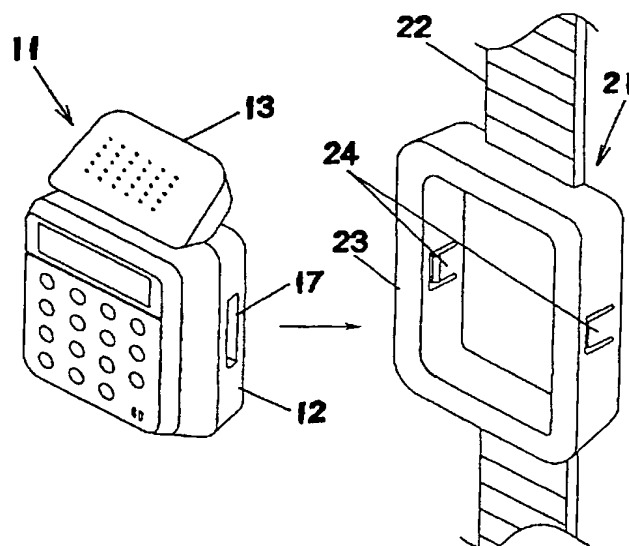
弁理士 小鍛冶 明 (外2名)

(54) 【発明の名称】 コードレステレホン

(57) 【要約】

【目的】 携帯性にすぐれたコードレステレホンを提供することを目的とする。

【構成】 手首に締着するベルト22と、このベルト22に装着された装着部23とから腕時計ベルトユニット21を構成し、コードレステレホン子機11を装着部23に着脱自在に装着するようにした。したがってコードレステレホン子機11を腕時計と同様に身体に保持して手軽に携帯・使用できる。



21 腕時計ベルトユニット

【特許請求の範囲】

【請求項1】コードレステレホン子機と、このコードレステレホン子機が着脱自在に装着され且つ身体に着脱自在に保持される保持ユニットから成ることを特徴とするコードレステレホン。

【請求項2】前記保持ユニットが腕時計ベルトユニットであることを特徴とする請求項1記載のコードレステレホン。

【請求項3】前記保持ユニットがポケットクリップユニットであることを特徴とする請求項1記載のコードレス

10 テレホン。
【請求項4】前記保持ユニットがペンダントユニットであることを特徴とする請求項1記載のコードレステレホン。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、身体に保持して携帯可能なコードレステレホンに関するものである。

【0002】

【従来の技術】近年、コードレステレホンとして、コードレステレホン子機を腰に着脱可能なベルトクリップにより身体に保持して携帯するものが提案されている。以下、従来のコードレステレホンの構成について説明する。図8は従来のコードレステレホン子機とベルトクリップの斜視図である。図8において、1はコードレステレホン子機、2はコードレステレホン子機1に取り付けるベルトクリップである。このベルトクリップ2はその上端屈曲部3をコードレステレホン子機1の背面上部に形成された係合溝4に着脱可能であり、したがってこのものは、コードレステレホン子機1にベルトクリップ2を取り付け、ベルトクリップ2を腰のベルトに装着し家庭内や会社内で携帯するようになっている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら上記従来の構成では、コードレステレホン子機1は、腰のベルトに装着したままで使用することは困難であり、使用の際は腰のベルトからその都度取りはずさねばならないため使用勝手の悪いものであった。かといってコードレステレホン子機1の大きさから胸ポケットに挿入して保持するにはかさばりすぎるものであり、あるいはベルトクリップ2で胸ポケットなどに装着するには支障があり、また腕や首には装着することはできないものであり、このように身体に保持して手軽に使用しにくいという問題点があった。

【0004】そこで本発明は、携帯性にすぐれ、また使用勝手のよいコードレステレホンを提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】このために本発明は、コードレステレホン子機と、コードレステレホン子機が着

脱自在に装着され且つ身体に着脱自在に保持される保持ユニットからコードレステレホンを構成したものである。

【0006】

【作用】以上のように構成することにより、コードレステレホン子機を腕やポケットや首などに保持して、手軽に支障なく家庭内や会社内で携帯することができる。

【0007】

【実施例】以下、本発明の実施例について図面を参照しながら説明する。図1は本発明の第一実施例のコードレステレホン子機の斜視図、図2は同コードレステレホン子機と腕時計ベルトユニットの斜視図、図3は同コードレステレホンを保持した使用者の正面図である。

【0008】図1において、このコードレステレホン子機11は、本体部12と、本体部12の上部に配設されたスピーカ部13から成っている。本体部12の前面には、電話番号などを入力するためのキーボード14、音声信号などを受信するマイクが内蔵された受信部15、時刻や電話番号などを表示する液晶パネル16が設けられている。また本体部12の両側面にはガイド穴17が形成されている。

【0009】図2において、腕時計ベルトユニット21は、ベルト22と、このベルト22に装着された装着部23から成っている。装着部23は箱形であり、その両側部には上記ガイド穴17に着脱自在に弾性的に嵌合するスナッフフィット24が切り抜き形成されている。

【0010】したがって図3に示すようにベルト22を手首に締着し、装着部23にコードレステレホン子機11の本体部12を装着することにより、腕時計と同様に手軽に携帯できる。

【0011】図4は本発明の第二実施例のコードレステレホン子機とポケットクリップユニットの斜視図、図5は同コードレステレホンを保持した使用者の正面図である。図4において、ポケットクリップユニット31は、クリップ32と、このクリップ32に結合された箱形の装着部33から成っており、装着部33の両側部にはスナッフフィット34が形成されている。したがってコードレステレホン子機11の本体部12を装着部33に装着し、図5に示すようにクリップ32を胸ポケットに係着して携帯する。この場合、スピーカ部13が上部に位置するように本体部12を装着部33に装着することにより、胸ポケットに保持したままで通話できる。

【0012】図6は本発明の第三実施例のコードレステレホン子機とペンダントユニットの斜視図、図7は同コードレステレホンを保持した使用者の正面図である。図6において、ペンダントユニット41の装着部33は図4に示すものと同構造であり、首輪42に保持されている。したがって図7に示すように首輪42を首にかけて携帯でき、そのまま通話することができる。

【0013】

3

4

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、コードレステレホン子機を支障にならないように手軽に携帯でき、また手軽に使用できる。また保持ユニットを腕時計ベルトユニット、ポケットクリップユニット、ペンダントユニットなどにすることにより、身体に保持したままで手軽に通話でき、使用勝手のよいコードレステレホンを実現できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第一実施例のコードレステレホン子機の斜視図

【図2】本発明の第一実施例のコードレステレホン子機と腕時計ベルトユニットの斜視図

【図3】本発明の第一実施例のコードレステレホン保持した使用者の正面図

【図4】本発明の第二実施例のコードレステレホン子機

とポケットクリップユニットの斜視図

【図5】本発明の第二実施例のコードレステレホン保持した使用者の正面図

【図6】本発明の第三実施例のコードレステレホン子機とペンダントユニットの斜視図

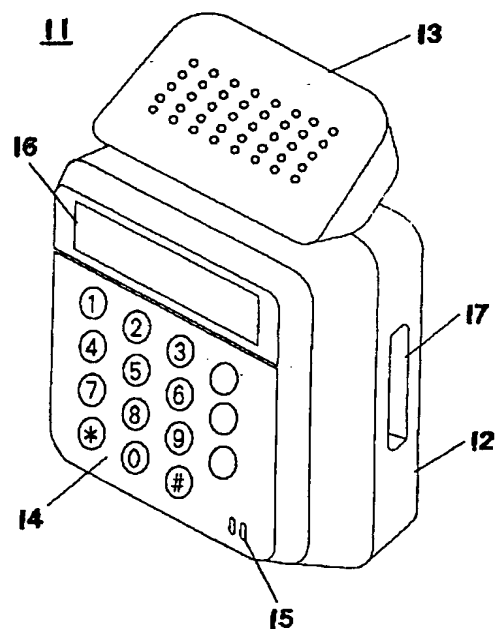
【図7】本発明の第三実施例のコードレステレホン保持した使用者の正面図

【図8】従来のコードレステレホン子機とベルトクリップの斜視図

10 【符号の説明】

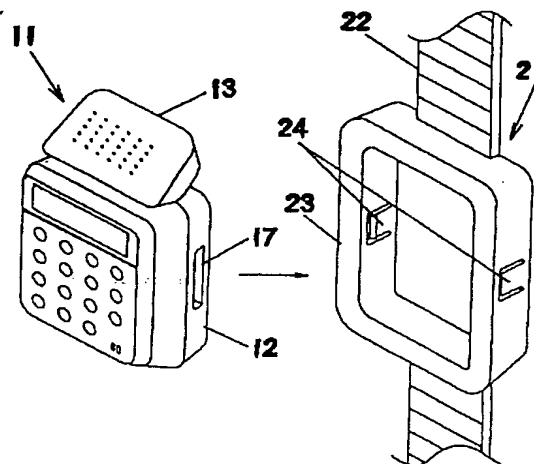
- 11 コードレステレホン子機
- 21 腕時計ベルトユニット
- 31 ポケットクリップユニット
- 41 ペンダントユニット

【図1】



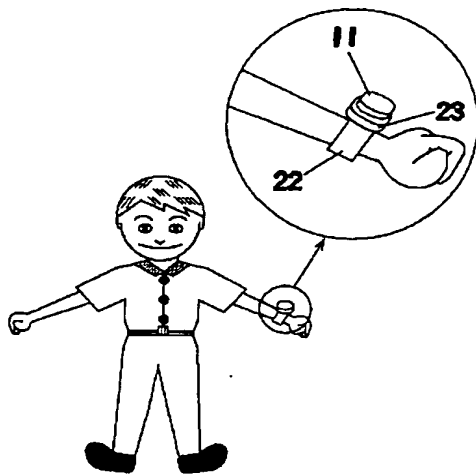
11 コードレステレホン子機

【図2】

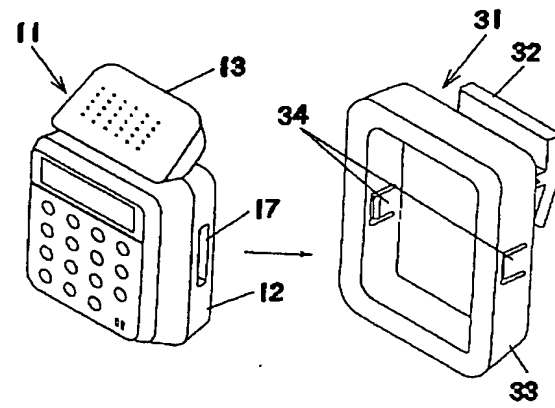


21 腕時計ベルトユニット

【図3】

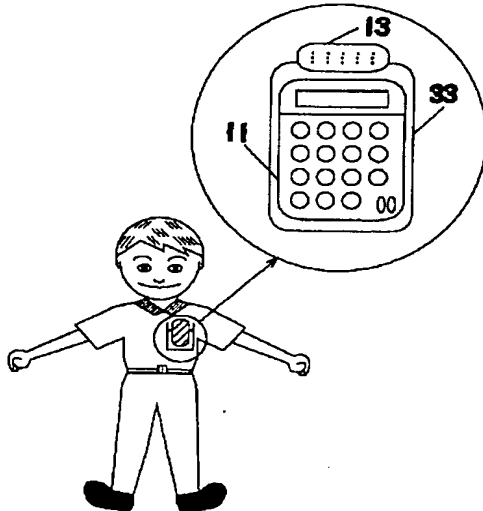


【図4】

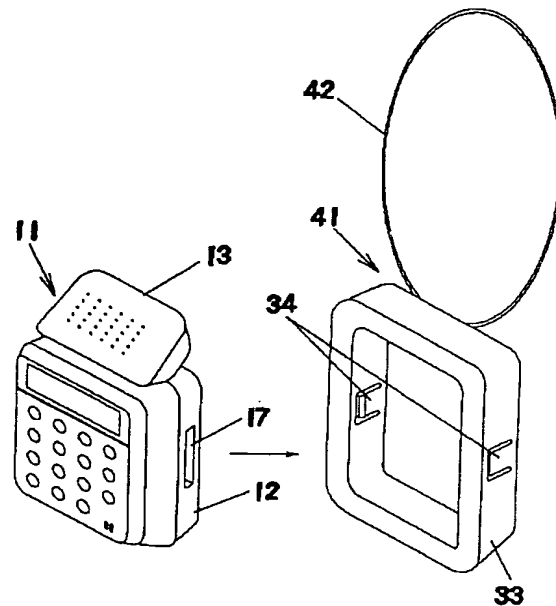


31 クリップユニット

【図5】

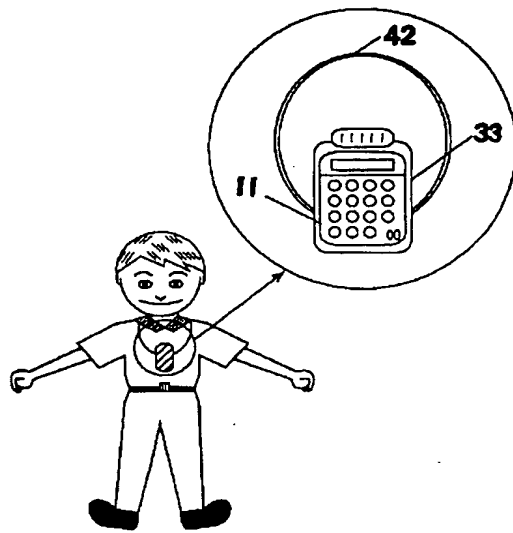


【図6】



41 ペンダントユニット

【図7】



【図8】

